

## 2016年度 学校評価および、学校関係者評価

### 1. 園の教育目標

共に生きていくために必要なことが形成されていく最も大切な時期の幼児期。幼い子ども達も大人も共に社会の一員として豊かな成長が得られるように願い、次の3項目を中心に保育しています。

- ①キリスト教保育
- ②のびのび保育
- ③自由・総合保育

### 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・本園の教育方針、指導計画の再確認を行い、内容を検討し、保育内容、施設の改善に取り組む。
- ・研修等を通じ、保育教諭の専門性・資質を向上し、保育に反映する。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育要領、教育課程、子どもの実態を基に指導計画を作成する。	・幼稚園教育要領、キリスト教保育誌を用いて、学年ごとに年、学期、月、週毎に保育案を作成し、保育に反映させている。また、日々の記録を参考にして子どもの実態を把握し週案の作成に反映させ、課題を園長、主任と話し合い、加筆訂正を行う。
保育教諭の資質、教育の向上のために研修等を充実させる。	・各保育教諭は、山口県私立幼稚園協会、岩国市私立幼稚園協会、山口県特別支援教育推進室、岩国市子育て支援、日本基督教団西中国教区、保育業者主催の各研修会に積極的に参加した。 また、ただ参加するだけでなく、報告書を作成し、回覧することにより情報、成果の共有化を図った。 ・毎月末の職員会議に加え、各行事や日々の反省や気づきを毎日保育後に話し合い、保育教諭一人一人の資質の向上につなげる。
外部講師による研修	・月1回、広島よりダンスの先生を招いてリズム遊びを行う。3歳以上児を対象に、クラスごとにリズム遊びを楽しんだ。年長組は4月よりダンスに取り組み10月の運動会で披露した。支援を必要とする子どもたちもリズム遊びを楽しみにしており、今後も続けていきたいと思う。
子育て支援の充実	・日々の一時預かりを実施し、保護者の急な用事に対応する。今年度より、7：30から早朝保育も行ない利用者も増えた ・保育園部分の一時預かりでは、産前産後の利用者が多く1歳児から5歳児まで預かった。 ・毎週木曜日の未就園児親子登園も幼児体操など、年間で計画を立てて行った。
	形で、子どもたちや給食の様子を伝える事が出来るように心がけているが、更新頻度にばらつきがあったので、定期的に更新するように心がけた。 今後は、さらに頻度を上げられるようにしていきたい。 そして、ホームページのリニューアルを行い、より園の様子を多くの方々に見ていただけるように工夫したい。
・環境整備の充実	・園門の修理や出入り口マットを購入し、二階保育室を利用する子どもたちの為に、手すりを設置した。 ・ひよこハウスでは、大型遊具、砂場も新たに設置した。 しかし、幼稚園の園庭遊具を点検するとともに、より安全で整った環境にするために古い遊具の撤去や新しい遊具の購入も視野に入れ、検討していきたい。

### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果、及び今後取り組むべき課題

- ・教職員は、各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことが出来るよう、心がけた。その中で園児一人一人に必要な援助を研修や園内の協議で分かちあったことを踏まえ、実践するよう努めている。  
特に研修面では、小規模園で保育園部分もあることから、決して多い保育教諭の人数ではない中、保育教諭の資質向上も鑑みて特に積極的に外部研修にも参加するようにした。
- ・事前の準備をより入念に行うことによりね行事だけでなく、通常の保育もさらに充実させることが可能だと思うので、園長以下、主任、担任、副担任、補佐、それぞれの職務をその都度確認し、今後より密なる連携を図り一層の努力を重ねていきたい。

### 5. 学校関係者評価

- ・保護者、近隣住民、当学校法人理事、同評議員で構成される、学校関係者評価委員会は今後とも幼児教育および、保育の充実を願いつつ、上記学校評価を適正であると承認した。

2017年5月27日開催学校法人真愛学園理事会、評議員会において上記が報告は承認された。